

【震災から二年】

自民党神奈川県第十二選挙区支部(支部長 星野つよし)では、震災から二年を迎えるにあたり、三月九日(土)に藤沢駅南口におきまして、街頭募金活動を行いました。これは自民党議員、党員、党友による全国一斉街頭募金活動の一環で、この週末は北海道から沖縄まで全国でこのような活動をさせていただきました。

私も、藤沢駅南口の街頭に立ち、震災から二年経過しても、なお進まない被災地の復興支援を訴えさせていただきました。

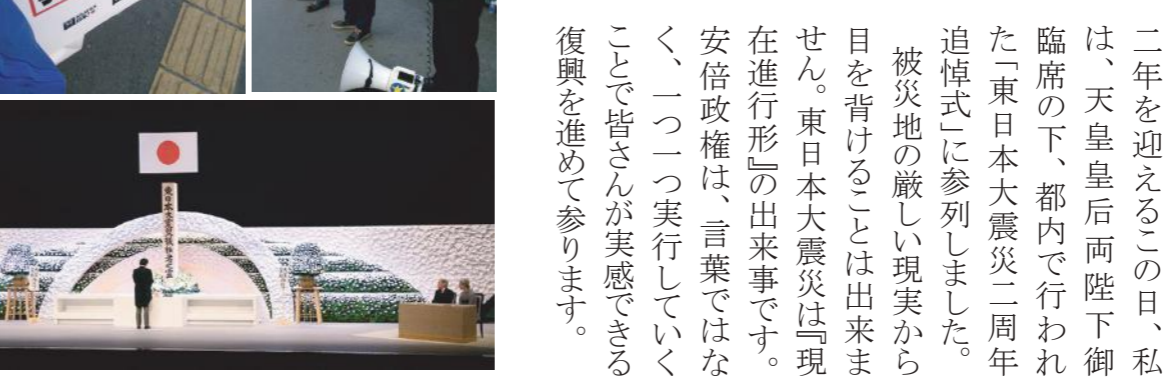
発生から二年を迎えた東日本大震災の被災地では、仮設住宅での不自由な生活を余儀なくされている方がたくさんおられるのが現状で、まだまだ復興が進んではいない状態です。しかし、人は時間の経過と共に出来事を風化してしまいます。私たち日本国民はこの未曾有の大震災を忘れてはいけません。そしてまだ被災地で苦しんでいる方々がおられることも忘れてはいけません。

この日、募金活動をしていくと、一番最初に、そして恥ずかしそうにかけよる、財布から小銭を出して入れてくれたのは、友達と自転車に乗ってどこかに遊びに行く途中の小学生でした。他にも、高齢の方から子供まで、たくさんの方からの募金を賜りました。その方々の思い、しっかりと被災

地に届けて参りたいと思います。

三月十一日、震災から二年を迎えるこの日、私は、天皇后両陛下御臨席の下、都内で行われた「東日本大震災二周年追悼式」に参列しました。

被災地の厳しい現実から目を背けることは出来ません。東日本大震災は『現在進行形』の出来事です。安倍政権は、言葉ではなく、一つ一つ実行していくことで皆さんが実感できる復興を進めて参ります。



国政報告会開催のお願い

平成25年は3月15日時点で4回の国政報告会を開催させていただきます。少人数でも結構、近所の奥様方が集まったときでも結構です。日程の調整がつく限り、星野つよし本人が国政の生の声をお届けします。是非、事務所までご連絡ください。

自民党 衆議院議員
星野 つよし
国政報告会

星野つよし連合後援会事務所
自民党神奈川県第12選挙区支部

〒251-0052 藤沢市藤沢973相模プラザ第3ビル1F
TEL 0466-23-6338 FAX 0466-23-6339
HP: <http://t-stars.com> mail: hosino@t-stars.com

ホシノテレビ
<http://j.mp/hossys> USTREAM

毎月第3水曜日17時から
USTREAMにてホシノTV配信中。
参加者も募集しております!

発行責任者 自由民主党神奈川県第十二選挙区支部 事務局 高橋 幸治



自由民主 号外号
発行 自由民主党
〒100-9910 東京都千代田区永田町1-11-23
電話 03-3881-6211
<http://www.jimin.jp>

2013.4月 星野つよし
【拡大版】—第1号—

発行元: 自由民主党神奈川県第12選挙区(藤沢・寒川)支部 支部長
〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢973 相模プラザ第3ビル1F
TEL:0466-23-6338 FAX:0466-23-6339
<http://t-stars.com> @hossys Hoshino tsuyoshi(星野剛士)

【初登院の朝】

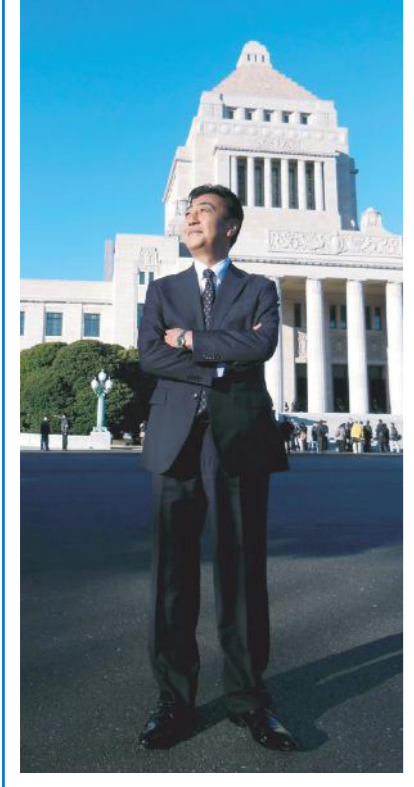


議員登院表示盤のボタンを押す

平成二十四年十二月二十六日午前八時。いよいよ国会初登院の朝を迎えました。「天気晴朗なれど風寒し」の朝でした。国会正門前に集合した新人議員。開門と同時に国会の中に入りましたが、最初の挨拶は記者の皆さんでした。初登院の感想や国会活動での抱負などを聞かれましたが、不思議と十八年前までは産経新聞

政治部記者として国会議員に取材をしていたころの自分が思い出されました。取材される側と取材する側、日本の政治を少しでも良くしたいという思いは同じだと改めて感じました。三十一歳で県議会議員に初当選させていたばかりの三期十二年の地方議員としての経験と五年間の浪人生活。十八年という歳月は自分にとって必要な時間だったと素直に感じました。

国会正面入口で初めて衆議院の女性職員に「議員バッジ」を胸につけてもらいました。様々な思いが頭をよぎり感無量でしたが、喜びよりも責任の重さを痛感した瞬間でもありました。ちなみに、この議員バッジを付け忘れると国会には入ることが出



来ません。その昔、福田 赳夫総理(当時)が付け忘れ、衆議院の衛視に制止されました。その時後ろにいた森喜朗官房副長官(当時)が付けていたバッジを手渡し登院できたという逸話も残っています。

国会周辺の食事情はお世辞にも良いものとはいえません。本会議開催日の昼の時間は、十一時五十分議院運営委員会の打合せ、正午に議運開催、十二時四十五分に自民党代議士会、十三時本会議開催です。正味約二十分。私は衆議院中庭の食堂の日替り定食(六百六十円)が定番です。味の評価は避けますが、グルメでなかった自分に感謝しています。

小学生たちの国会見学も連日大賑わいです。「こんにちは」と、声をかけると元気に「こんにちは」。『どこから来たの?』と問いかけると「埼玉からです」などと可愛い答え。時間の許す限り声をかけるようにしています。この中から将来の国会議員が出来ることを願って…。

【青山議員宿舎物語】

地下鉄『乃木坂駅』徒歩1分、国立新美術館の隣青山霊園の向かいにひっそりとたたずむ『衆議院青山議員宿舎』。築、何と五十一年。どれぐらい古いのか説明が難しいので、フェイスブックにアップしたところ大変な反響でした。意見の多くは「こんなに古いところに住んでいるんですか？」。畳六畳の部屋二つと台所とトイレ。時よりテレビのバラエティー番組に取り上げられる『赤坂議員宿舎』とはお間違えなきようお願いします。



衆議院青山議員宿舎

私の宿舎は青山議員宿舎の三階です。この古い宿舎の住人たちの巻き起こす珍事件も多発しています。極めつけは『犬の鳴き声事件』。事件の発端は、千葉の秋本代議士がドアの外で犬の鳴き声を聞いたと同じ三階住人である群馬の笹川代議士にある会合で強調。笹川代議士いわく「みんな疲れているのは事実だが宿舎に犬がいるわけない。それは幻聴だ。少し休んだ方がいい」と喝破。幻聴と言われた秋本代議士は引き下がりません。「幻聴な訳がないワンワンと吠えていた」。納

得がいかず、悶々とした日々を過ごしていた秋本代議士はある会合後、同じ住人のある衆議院議員に「犬の鳴き声聞いたことない？」尋ねたところ、神奈川のある代議士は「それうちの犬です。ドアを開けた時に抜け出して確かに廊下を走り回っていました」とカミングアウト。溜飲を下げた秋本代議士はその事実を私に報告してきました。「犬、確かにいました。幻聴ではなかったんです」と大喜び。ですが疑問は残ります。その犬は常駐しているのか？なぜ議員宿舎に持ち込まれたのか？捜査はまだまだ続きます。因みに主犯の神奈川の代議士の選挙区と氏名は同じ党の情けで伏せさせていただきます。



【外務委員会と安全保障そして外国語】

衆議院の常任委員会を外務委員会への配属となりました。日本の外交と安全保障に責任を持つ委員会です。第一希望の委員会に配属されたことに

事件の詳細が判明した際に明らかにするかどうか判断します。名誉のために付言しますが、私ではありません。

なります。戦後、今ほど日本の外交・安全保障が危機に瀕している時はありません。基軸である日米同盟の空洞化、中国の海洋膨張主義、北朝鮮の核と弾道ミサイル開発。先の衆院選での自民党政権公約でも、最優先事項に『外交・安全保障の立て直し』が挙げられました。私は自民党でも外交部と国防部の主要メンバーとして活動を続けております。『外交・安全保障の立て直し』は私の主要専門分野の一つとして位置付けております。

さて、外務委員としての最初の仕事は日本とEUの国会議員会議の日本側代表団の一員として二月十二日から日本で行われた各種セッションでの活動

です。長年続く歴史あるセッションでEU側議員と本音の議論を戦わすことができ極めて有意義でした。お互い先進国同士で少子高齢化など共通課題も多く、同様の悩みを抱えていることも分かりました。ちなみに米国の大学(エルメラ大学国際関係学科)を卒業しているというも近年とんと使っていない英語が錆び付いていることを実感し、反省しきり。現在は移動中にリスニング時間があればリーディングと錆び落としに寸暇を惜しんで取り組んでいます。半年以内の錆び落としがターゲット(笑)。

【議院運営委員と国会同意人事そしてアベノミクス】

衆議院の議院運営委員会の一員として日々奔走しています。この委員会には国会全体の運営を司ることを任務としており、本会議や予算委員会、各種常任委員会の開催などが主な任務です。余談ですが、国会見学のパンフレットに写真が掲載されていますが、写っているのはこの議院運営委員会(議運)のメンバー達です。さらに国会同意人事の際の所信聴取はこの議運が行います。最近も注目された日銀総裁、副総裁の同意人事も議運で所信聴取しました。総裁候補の黒田東彦氏の所信聴取は各党が様々な角度から質問、約三時間も続きました。最大の注目は金融政策への姿勢です。

安倍総理の経済再生政策、いわゆるアベノミクスの三本の矢のうち一つは『大胆な金融緩和』です。それだけに日銀総裁候補の黒田氏の考え方や基本姿勢はどうしても聴取をしなければならぬ点でした。黒田氏は答弁で「長引くデフレから脱却できないのは、先進国では日本だけ。デフレ脱却のための手法は色々ある」「結果を出すまでの期間は二年以内を念頭に置く」との積極姿勢を強調しました。私の印象も『理論整然としていてぶれない信念を持っているな』というものでした。政府とインフレ目標(インフレターゲット)を共有しつつもそのための金融緩和手法や規模については日銀の独立性を維持するという

極めて重要な任務を果たしてもらえ人物だと実感しました。ここで、安倍総理の日本経済再生政策、いわゆる『アベノミクス』について説明させていただきます。アベノミクスの三本の矢とは①機動的な財政出動、②大胆な金融緩和、③投資を喚起する成長戦略です。①の機動的な財政出動とは、具体的には緊急経済対策を盛り込んだ補正予算(既に成立)の実行で、政府が防災・減災対策など必要な公共事業を前倒しで行うことです。②の大胆な金融緩和とは、日銀が政府と約束した緩やかなインフレ目標、2%のインフレターゲットに至るまではあらゆる手法を大胆に活用し目標を達成するこ

とです。先に述べたようにだからこそ新しい日銀総裁に誰がふさわしいのかは重要なのです。③の投資を喚起する成長戦略とは政府と民間が協力して成長戦略や戦略分野を描き出し、民間企業が設備投資や技術開発投資を行いやすい環境を整備し、経済活性化を通じて雇用拡大や賃金上昇を目指すものです。政府と日銀と民間企業がそれぞれの立場で協力しながら経済再生を実現しようというのがアベノミクスの真髄です。

